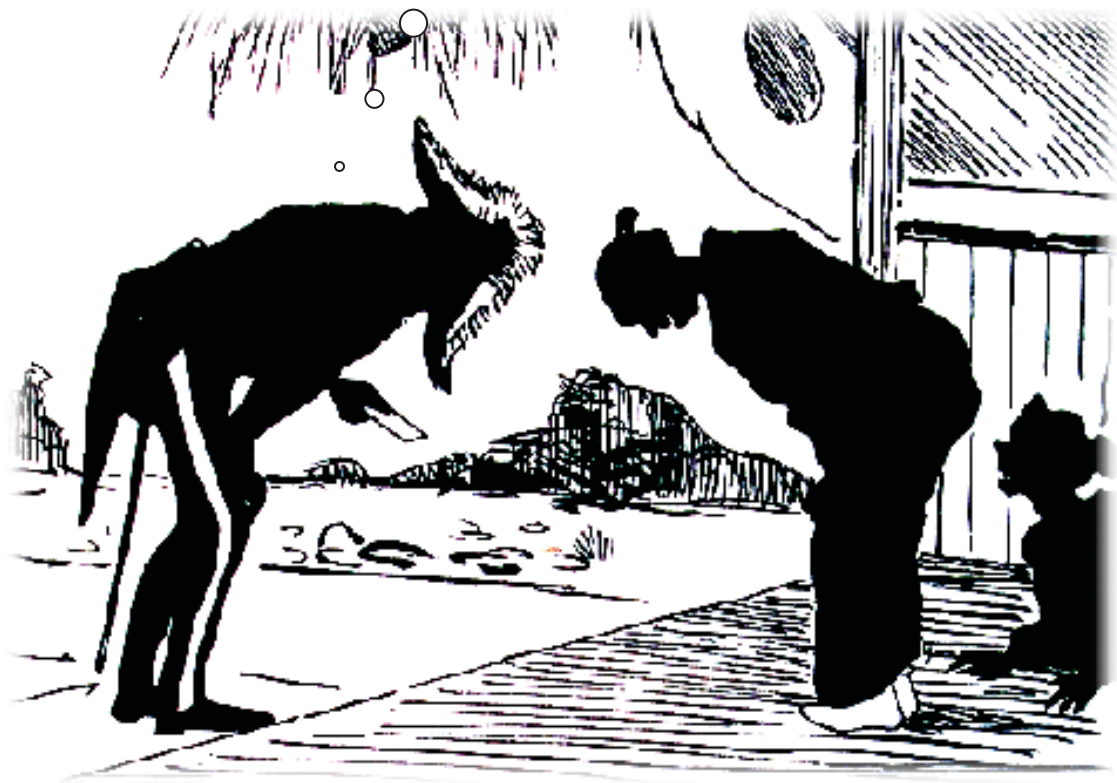


東海大学附属図書館第51回展示会

外国から見た日本

-幕末から明治初期-

What kind of
country is Japan?



2009年10月24日(土) ~ 11月26日(木)

東海大学附属図書館
湘南校舎11号館図書館展示室

～ 最近の展示 ～

2004年	5	月	むかしのくらし
	11	月	北條秀司の舞台
2005年	4	月	歴史書は語る ービザンツ帝国一千年の歴史と歴史書ー
	6	月	北欧の近代文学
	11	月	彩色本となった日本の古典文学 ー東海大学附属図書館蔵書展ー
2006年	6	月	江戸の出版物と装丁あれこれ
	11	月	桃園文庫展 ー平安朝の物語を中心にー
2007年	6	月	レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿を見る ー古代の知と技をめぐってー
	11	月	書画展北條秀司をめぐる人びと
2008年	6	月	附属図書館所蔵古地図展
	11	月	源氏物語展ー語り継がれた 1000 年ー
2009年	6	月	日本の印刷史と装丁のおもしろさ

◇ 展示にあたって ◇

今回は、幕末から維新期の日本の様子について、欧米人の目を通して描かれた資料を展示した。

日本を紹介した書物など少なかった当時、どのような思いを抱いて東洋の国、日本を訪れ、そこで何を感じ、伝えようとしたのであろうか。彼らの目に、当時の日本はどのように映っていたのであろうか。

展示資料には、幕末から維新期に起こった数々の歴史的に重要な出来事について、的確に著されている。また当時の文化、風俗・習慣、芸術、地理なども非常に丁寧に記録されている。

大きく変動する当時の日本の様相を、今回の展示会から垣間見ていただければ幸いである。

なお、展示資料は原則として、初版の刊行年の順に配列した。但し、同一著者の資料については前後になるように配慮した。巻末には著者索引を付したので参考にされたい。

1. クラシェンニコフ 「カムチャッカ誌」

Krasheninnikov, Stepan Petrovich (1713-1755) . - The history of Kamtschatka, and the Kurilski Islands, with the countries adjacent : illustrated with maps and cuts

Glocester : Printed by R. Raikes for T. Jefferys, geographer to His Majesty, London , 1764

280p ; 28cm

ジェームズ・グリーヴの翻訳で、本書のもととなったロシア語の初版(1755年刊)は、大変入手の難しい稀覯書として知られている。「カムチャッカ誌」と題されているが、その内容はカムチャッカに限らず、北太平洋沿岸地方一帯に及んでいる。科学アカデミーの学生だったクラシェンニコフは、ベーリング海の第2回航海に博物学者ゲオルグ・シュテラーの助手として参加した。彼と共にカムチャッカ半島を探検し、そのときに収集した資料が本書の基礎となった。アメリカに関する章はシュテラーのノートをもとにしたもので、この中のアラスカとアリューシャン列島についての記述は、印刷物としては最も早い時期の記録といえる。千島列島に関する章では、この地域における日本の活動にも触れられており、また当時欧州人にはその位置や地理的性格が未解決で議論の対象となっていた北海道についても論じられている。このグリーヴの翻訳は、キャプテン・クックが使用した北太平洋地域についての主要な資料のひとつで、彼は第3回航海にこの著書を携行しており、日記の中に言及されている。展示したものは1764年刊の英語版(初版)。

2. ゴローヴニン 「日本幽囚記」

Golovnin, Vasilii Mikhaïlovich (1776-1831) . - Narrative of my captivity in Japan : during the years 1811, 1812 & 1813

London : Printed for H. Colburn , 1818

2v ; 22 cm

1811(文化 8)年千島列島南部の測量の命を受け、国後島に上陸したロシア軍艦の艦長ゴローヴニンは幕府の警備兵に捕えられ、2年3ヶ月にわたって松前の獄中に幽閉された。その体験と日本に対する認識を記録した本書は、日本についての信頼のおける資料として評価され、世界各国語に翻訳された。翻訳書：「日本幽囚記」 上・中・下 (岩波文庫) 岩波書店刊 ほか

3. メドハースト 「英語箋」

Medhurst, Walter Henry (1796-1857) . - An English and Japanese, and Japanese and English vocabulary : compiled from native works

Batavia : [出版者不明] , 1830

344p ; 22cm

メドハーストが著述した「An English and Japanese, and Japanese and English vocabulary」の全部を英和の部(前編3冊)と和英の部(後編4冊)とに分け、原書の活字体を筆記体に改め、また日本語記載の体裁を変えて忠実に復刻したもので、本コピーはそのうちの前編の3冊。

翻訳書：「英和・和英語彙：複製と研究・索引」（幕末の日本語研究）三省堂刊

4. シーボルト 「日本」

Siebold, Philipp Franz von (1796-1866) .- Nippon : archiv zur beschreibung von Japan und dessen neben-und schutzländern Jezo mit den südlichen Kurilen, Sachalin, Korea und den Liukiu-inseln. 2. aufl.

Würzburg ; Leipzig : L. Woerl , 1897

2v ; 27cm

ドイツ人シーボルトは日本研究の第一人者である。長崎出島のオランダ商館の医師として、1823(文政 6)年から 1828(文政 11)年の 5 年間日本に滞在し、蘭学の発展に大きく貢献した。日本を追放されたシーボルトは、日本滞在中に収集した資料をもとに本書を執筆した。1832(天保 3)年に第 1 分冊を出版し、1852(嘉永 5)年までに計 20 冊を出版した。日本について幅広く記述され、その資料の収集の広さ、内容の正確さ・詳細さは類書中の群を抜き、西洋人の日本研究の基礎となる。本文は主としてドイツ語で書かれている。本書は「Flora Japonica」(日本植物誌)、「Fauna Japonica」(日本動物誌)とともに、シーボルトの代表的な著作である。展示したものは 2 版。

翻訳書：「日本」 雄松堂書店刊 ほか

5. シーボルト 「日本植物誌」

Siebold, Philipp Franz von (1796-1866) .- Flora Japonica : sive, Plantae, quas in imperio Japonico collegit, descripsit

Lugduni Bataborum : Apud Auctorem , 1835-1844

2v ; 41cm

日本で収集した植物標本や川原慶賀などの日本人絵師が描いた下絵をもとに作成され、1835(天保 6)年から 1870(明治 3)年にかけて 30 分冊として刊行、当館は 30 分冊のうち第 1 分冊から第 25 分冊まで所蔵。

翻訳書：「シーボルト日本の植物」 八坂書房刊 ほか

6. ヌーフ 「日本回想録」

Doeff, Hendrik (1777-1835) .- Herinneringen uit japan

Tenri : Tenri Central Library

Tokyo : Sold by Yushodo , 1973

268p ; 23cm

ヌーフは、ロシア使節レザノフの来航やイギリス軍艦フェートン号の長崎入港事件などに際して外交面で活躍し、またハルマの蘭仏辞書第 2 版によって蘭日辞書の編纂をするなど蘭学の興隆に多大な貢献を果たした。本書は、その日本滞在中の回想録で、日本の政治、慣習、宗教、キリシタンの迫害、

日本人論などが書かれた第 1 部と、1799(寛政 11)年から 1817(文化 14)年までのゾーフの滞日中の活動を記録した第 2 部で構成されている。初版年は 1833 年で、展示したものは 1973 年版。

翻訳書：「ゾーフ日本回想録」（異国叢書）雄松堂書店刊

7. オヴェルメール 「日本国の知識に関する寄与」

Overmeer Fisscher, J. F. van (1799-1848) .- Bijdrage tot de kennis van het japansche rijk

Amsterdam : J. Müller , 1833

320p ; 30cm

オヴェルメールは 1820(文政 3)年にオランダ商館員として来日し、9 年間の滞在中に商館長のブロンホフと共に 1822(文政 5)年、江戸参府もしている。本書は江戸末期箕作玩甫、杉田成郷等によって、「日本風俗備考 22 巻」として翻訳、刊行された。日本人の起源、政治、宗教・芸術、衣食住、等々の日本に関する事物のほか、日蘭対訳日常会話集なども収録され、19 世紀前半の外国人の目で見た日本国内事情を知る格好の資料のひとつとなっている。

翻訳書：「日本風俗備考」 1・2 (東洋文庫) 平凡社刊

8. マクファーレン 「日本論」

MacFarlane, Charles (1799-1858) .- Japan : an account, geographical and historical, from the earliest period at which the islands composing this empire were known to Europeans, down to the present time, and the expedition fitted out in the United States, etc.

New York : G. P. Putnam , 1852

365p ; 20cm

マクファーレンが著した日本論。地理、文化、習慣など 11 章に分けて記述されている。

9. フレシネ 「日本」

Fraissinet, Edouard (生没年不明) .- Le Japon : histoire et description.- rapports avec les Européens.- expédition américaine

Paris : Arthus Bertrand , 19--?

2v ; 19cm

フレシネはシーボルトの「日本」(展示No. 4)をフランス語に訳した人物で、本書も多くをシーボルト「日本」を参考にして書いたと思われる。日本人の起源の考察から始まり、幕末期の日本をいろいろな観点から記している。歴史、民族、人類学、言語学的分析、また天皇制、身分制などについて言及し、ヨーロッパ諸国との差異、それまでに日本を訪れた先人達の記録、鎖国下の日本と唯一交流を持ったオランダ、隣国中国、朝鮮との関係も述べられている。「日本論」、「日本人論」として書かれた開国以前のものとして特筆されるべき一書と言える。第 2 巻には統計表が収録され、巻末には日本全図が折り込まれている。初版は、1853 年に出されている。第 2 版では 3 章が追加され、地図が付けられている。

10. ハイネ 「世界周航日本への旅」

Heine, Wilhelm (1817-1885) .- Reise um die Erde nach Japan : an Bord der Expeditions-Escadre unter Commodore M.C. Perry in den Jahren 1853, 1854 und 1855, unternommen im Auftrage der Regierung der Vereinigten Staaten

Leipzig : O. Purfürst , 1856

2v ; 25cm

アメリカに渡り、ペリー提督の日本遠征に参加したドイツ人のハイネの著で、その航海記とスケッチ画をまとめたもの。本書はライプチヒ刊の初版。

翻訳書：「ハイネ世界周航日本への旅」（新異国叢書）雄松堂出版刊

11. ペリー 「日本遠征記」

Perry, Matthew Calbraith (1794-1858) .- Narrative of the expedition of an American squadron to the China Seas and Japan : performed in the years 1852, 1853, and 1854, under the command of Commodore M. C. Perry, United States Navy, by order of the government of the United States

Washington : A.O.P. Nicholson , 1856

3v ; 30cm

アメリカ政府の委託により、ペリー提督本人の航海日誌、軍事上の通信文、乗組員らの日記をもとに、ペリー監修、フランシス・ホークス編集で公行したもの。日米和親条約の全文も収録されている。また、第1巻 p.408 の公衆浴場の図版は、有名であり珍重されている。

翻訳書：「日本遠征記」 1-4 (岩波文庫) 岩波書店刊

12. オリファント 「エルギン卿遣日使節録」

Oliphant, Laurence (1829-1888) .- Narrative of the Earl of Elgin's mission to China and Japan in the years 1857, '58, '59

Edinburgh : William Blackwood , 1859

2v ; 23cm

オリファントは駐日イギリス公使館の一等書記官で、天津条約の締結に成功したイギリスの外交官エルギンに同行して 1861(文久元)年に来日するが、同年 7 月 4 日に水戸浪士による東禅寺の襲撃事件で負傷したためわずか 10 日で帰国することになった。本書は 1857(安政 4)年から 1859(安政 6)年にわたる中国と日本に関する使節団の記録。

翻訳書：「エルギン卿遣日使節録」（新異国叢書）雄松堂書店刊

13. オズボーン 「日本への航海」

Osborn, Sherard (1822-1875) .- A cruise in Japanese waters.

Edinburgh ; London : W. Blackwood , 1859

210p ; 20cm

1857(安政 4)年から 1859(安政 6)年にかけて、中国および日本に渡航したイギリスの提督オズボーンの日本滞在中の見聞記。本書刊行の 2 年後には江戸滞在中に収集した木版画をイギリスに紹介した「日本断章」(展示 No.14)を著している。

翻訳書：「オズボーン日本への航海」(新異国叢書) 雄松堂出版刊

14. オズボーン 「日本断章」

Osborn, Sherard (1822-1875) .- Japanese fragments

London : Bradbury and Evans , 1861

139p ; 19cm

江戸滞在中に収集した 27 点の図版が収められており、うち 6 点は手彩色されている。

15. スタインメッツ 「日本と日本人」

Steinmetz, Andrew (1816-1877) .- Japan and her people

London : Routledge Warnes and Routledge , 1859

447p ; 20cm

日本に関する文献や図版の記述のほか、ケンペル、ヒルドレス等の著作からの引用が多数使用されている。

16. トロンソン 「日本、カムチャッカ、シベリア紀行」

Tronson, John M. (生没年不明) .- Personal narrative of a voyage to Japan, Kamtschatka, Siberia, Tartary, and various parts of coast of China : in H. M. S. Barracouta

London : Smith, Elder , 1859

414p ; 23cm

イギリス海軍の蒸気船バラクータ号に便乗していたトロンソンの極東紀行で、日本では長崎から函館まで回航しており、その時の見聞記。

17. ド・モージュ 「1857、1858 年のグロ使節団の中国・日本回想録」

Moges, Alfred, marquis de (?-1861) .- Souvenirs d'une ambassade en Chine et au Japon en 1857 et 1858

Paris : Librairie de L. Hachette , 1860

350p ; 18cm

1857(安政 4)年から 1858(安政 5)年にフランスのグロ全権公使に随行していたド・モージュによって帰国後著された覚書。イギリスの対清アヘン政策についての告発も含まれている。

18. ド・モージュ 「1857、1858年のグロ使節団の中国・日本回想録」

Moges, Alfred, marquis de (?-1861) .- Recollections of Baron Gros's embassy to China and Japan in 1857-58

London ; Glasgow : Richard Griffin , 1860

368p ; 19cm

展示 No.17 の英語版

19. シャシロン 「日本・中国・印度に関する所見」

Chassiron, Charles Gustave Martin, baron de (1818-1871) .- Notes sur le Japon, la Chine et l'Inde
Paris : E. Dentu : Ch. Reinwald , 1861

356p ; 22cm

フランスのシャシロンが 1858(安政 5)年から 1860(万延元)年に日本、中国、インドを回航した際の記述で、全体の半分以上が日本の記述にあてられている。特にグロ全権公使一行の来航、および 1858(安政 5)年の日仏修好通商条約調印に関する記述に詳しく、幕府側全権水野忠徳との交渉を伝える公式文書も含まれる。また折込の江戸の見取り図他、北斎の絵本を基にした日本の風俗・動植物を収めた図版が 13 点添えられている。

20. ホジソン 「長崎函館滞在記」

Hodgson, C. Pemberton (1821-1865) .- A residence at Nagasaki and Hakodate in 1859-1860 : with an account of Japan generally

London : Richard Bentley , 1861

350p ; 20cm

函館駐在領事を務めたイギリスの外交官ホジソンが、在任中の外交折衝や日本の国情のほか、日本の経済、政治、社会、文化全般について記述したもので、幕藩体制の組織やロシアの動向と函館の警備体制に関する事柄などを含め、外交官として見た幕末日本の貴重な証言となっている。また、在任中は植物採集に熱心で、標本を本国のキュー植物園のフッカー卿へ送っていた。本書にはそれらの標本をもとにした日本植物目録も収録されている。

翻訳書：「ホジソン長崎函館滞在記」(新異国叢書) 雄松堂出版刊

21. ティリー 「日本、アムルー河口および太平洋：ロシア艦リンダ号世界周航記」

Tilley, Henry Arthur (生没年不明) .- Japan, the Amoor, and the Pacific : with notices of other places comprised in a voyage of circumnavigation in the Imperial Russian corvette "Rynda," in 1858-1860

London : Smith, Elder and co. , 1861

405p ; 22cm

ティリーがロシアのコルベツト艦リンダ号に乗船し、日本、アジア、オセアニア、アメリカを航海した2年間の世界周航記。

22. フォンブランク 「日本と華北での2年間」

Fonblanque, Edward Barrington de (1821-1895) .- Nippon and Pe-che-li, or, Two years in Japan and Northern China

London : Saunders, Otley , 1862

286p ; 23cm

フォンブランクは、当時のイギリスを代表するジャーナリスト、オルバニー・フォンブランクの甥にあたる。1859(安政6)年から1861(文久元)年にかけて中国、日本に旅行。オールコックらと共に、ヨーロッパ人として最初に富士山に登山した一人となった。本書は日本の社会・風俗・地理に関する豊富な記述を含んだその旅行記。

23. オールコック 「大君の都」

Alcock, Rutherford, Sir (1809-1897) .- The capital of the tycoon : a narrative of a three years' residence in Japan

London : Longman, Green, Longman, Roberts & Green , 1863

2v ; 22cm

オールコックは初代駐日イギリス公使で1859(安政6)年に来日し、1864(元治元)年に本国へ召還されるまで江戸に滞在した。彼はアメリカ公使のハリスの帰国後、在日各国外交団の指導的立場にあり、生麦事件など多くの外交問題の処理にあたった。1864(元治元)年8月の4国連合艦隊下関攻撃の処理で外相ラッセルと衝突し、本国に召還された。本書は日本における3年間の滞在の記録であるが、これほど当時の日本人の生活、社会、文化などを鋭く観察し、揺れ動いた幕末期の政治や外交を的確にそして網羅的に著したものは無いといわれ、当時の日本を知るための貴重な文献として評価されている。ワーグマンの村娘の肖像画を含む石版図版(カラーを含む)のほか本文の挿絵も豊富である。

翻訳書：「大君の都」(岩波文庫) 岩波書店刊 ほか

24. フォーチュン 「幕末日本探訪記：江戸と北京」

Fortune, Robert (1813-1880) .- Yedo and Peking : a narrative of a journey to the capitals of Japan and China : with notices of the natural productions, agriculture, horticulture, and trade of those countries, and other things met with by the way

London : J. Murray , 1863

395p ; 23cm

日本産植物学の研究に従事したフォーチュンは1860(万延元)年と1861(文久元)年の2回来日した。長崎、神奈川、横浜、江戸そして琉球諸島にまで上陸し、園芸植物や珍しい植物を採集して本国イギリスへ送った。この日本滞在記には主に日本の美しい四季や自然、風物や習慣、絹や茶の価値などにつ

いて触れられているが、桜田門外の変、東禅寺の襲撃事件、生麦事件などに関する記述も見られ、幕末の世相を知るための貴重な文献となっている。

翻訳書：「幕末日本探訪記：江戸と北京」 講談社刊

25. カセンブルート 「メデューサ号日本航海記」

Casembroot, François de (1817-1895) .- De Medusa in de wateren van Japan, in 1863 en 1864
s-Gravenhage : Gebroeders van Cleef , 1865

150p ; 23cm

1864(元治元)年 8 月の下関戦争に関わったオランダ船メデューサ号の館長カセンブルートによる航海記。長州藩はたった 3 日でこの戦いに敗れ、これが尊皇攘夷、明治維新への契機となる。この一連の出来事をオランダ側の視点から記述しており、資料的価値は多大である。

26. リンダウ 「日本」

Lindau, Rudolph (1830-1910) .- Japan : Eene reisbeschrijving

Leyden : Breuk & Smits , 1865

264p ; 23cm

リンダウはスイス通商調査団の団長として 1859(安政 6)年 9 月 3 日に長崎へ到着。10 月には神奈川に移り幕府との交渉を行ったが失敗。1860(安政 7)年 1 月に日本を去る。その後 1864(元治元)年にはスイスの駐日領事をつとめた。この滞在中の当時の長崎近郊などの様子を伝えている。

27. アンベール 「日本」

Humbert, Aimé (1819-1910) .- Le Japon

Paris : L. Hachette , 1866-1869

1v ; 32cm

アンベールは、スイスの遣日使節団長として 1863(文久 3)年 4 月 9 日に長崎に到着し、1864(文久 4)年 2 月 6 日にスイス修好通商条約が締結されるまでの 10 ヶ月間滞在した。本書は、当時の日本の風俗、習慣、歴史や地理、宗教などをつぶさに観察、記録したもので、「Le tour du monde」に掲載されたオリジナル雑誌。主著「Le Japon illustré」(展示 No.28)のもとになっている。

28. アンベール 「幕末日本図絵」

Humbert, Aimé (1819-1910) .- Le Japon illustré : ouvrage contenant vues, scènes, types, monuments et paysages dessinées

Paris : L. Hachette , 1870

2v ; 35cm

展示 No.27 をもとにして書かれており、幕府から様々の規制を受けたにもかかわらず、先入観なしに人々の生活が描写されている。

翻訳書：「アンベール幕末日本図絵」 上・下（新異国叢書）雄松堂書店刊 ほか

29. シルバー 「日本風俗習慣点描」

Silver, Jacob Mortimer Wier (生没年不明) .- Sketches of Japanese manners and customs

London : Day and Son , 1867

51p ; 30cm

本書はイギリス海兵隊の軍隊に同行して来日したシルバーが 1864(元治元)年から 1865(慶応元)年にかけて収集した日本の風俗習慣などの彩色図を原画に、ロンドンの Day & Son 社が制作した 27 枚のクロモ・リトグラフを挿絵に使用し刊行された美しい書物である。挿絵の原画は日本人の手によるものだが、制作過程で鮮やかな西欧的色感が付与され、日本趣味受容の一例となった書物。

30. ポンペ 「日本滞在見聞記：日本における五年間」

Pompe van Meerdervoort, Johannes Lijdius Catharinus (1829-1908) .- Vijf jaren in Japan.

(1857-1863) : Bijdragen tot de kennis van het Japansche keizerrijk en zijne bevolking

Leiden : Firma van den Heuvell & van Santen , 1867-1868

2v ; 25cm

1857(安政 7)年から 1862(文久 2)年まで長崎に滞在したオランダの海軍軍医ポンペが、帰国後に日本の歴史、政治、文化、ポンペが長崎で行なった医学教育などを記したものの。

翻訳書：「ポンペ日本滞在見聞記：日本における五年間」（新異国叢書）雄松堂書店刊 ほか

31. ボーヴォアール 「世界周遊記」

Beauvoir, Ludovic, marquis de (1846-1929) .- Pékin, Yeddo, San Francisco : voyage autour du monde

Paris : H. Plon , 1872

359p ; 19cm

ボーヴォアールはブリュッセルで生まれ、後にフランス外務省の高級官僚となる。1866年フランス公爵パンティエーブルの世界一周の旅に随行し、オーストラリアや中国、アメリカのサンフランシスコなどを廻るなかで、1867(慶応 3)年には日本にも立ち寄っている。日本に関しては、32日間にわたって滞在した経験を記している。特に横浜到着後、江戸や鎌倉、箱根などへの旅を通して見た人々の生活や習慣などから、この国が繁栄する国になるとの予測もたてている。

翻訳書：「ジャポン 1876」（有隣新書）有隣堂刊

32. ヒューブナー 「世界漫遊記」

Hübner, Joseph Alexander, Graf von (1811-1892) .- Promenade autour du monde, 1871. 5 t h .ed

Paris : Hachette , 1877

679p ; 35cm

ヒューブナーはオーストリアの外交官で、日本に滞在した 2 ヶ月間に見聞した日本の政治、社会、文化、芸術などについてまとめたもので、その外交官としての鋭い観察眼と優れた芸術観、そして洞察力のある考察によって極めて貴重な日本論として評価されている。初版年は 1873 年で、展示したものは 5 版。

33. メスニエ 「日本：研究と旅の印象」

Mesnier, Pedro Gastão (1848-1884) .- O Japão : estudos e impressões de viagem

Macau : Typographia Mercantil , 1874

355p ; 22cm

メスニエは、1873(明治 6)年にポルトガルの全権使節マカオ総督サン・ジャヌアリオの随員 (外交官)として来日。本書は明治維新の日本の様子が描かれた日本旅行記で、マカオで刊行された珍しい本である。

34. アダムズ 「日本史」

Adams, Francis Ottiwell, Sir (1825-1889) .- The history of Japan from the earliest period to the present time

London : H. S. King & Co. , 1874-75

2v ; 22cm

アダムズは 1872(明治 5)年前後、江戸のアメリカ公使館の初代書記官を務めた。本書は幕末から明治維新の歴史を中心にまとめた日本通史である。

35. バックス 「東洋の海：中国、日本、台湾航海記」

Bax, Bonham Ward (1837-1877) .- The Eastern seas : being a narrative of the voyage of H.M.S. "Dwarf" in China, Japan, and Formosa : with a description of the coast of Russian Tartary and eastern Siberia, from the Corea to the River Amur

London : John Murray , 1875

287p ; 21cm

1872(明治 5)年、ドワーフ号を率いて中国・日本を航海した英国帝国海軍バックス大佐による航海誌。日本・中国・台湾や、当時まだよく知られていなかったロシアのシベリア東岸への、3年8ヶ月にわたる記録を挿絵入りで紹介している。

36. グリフィス 「ミカド」

Griffis, William Elliot (1843-1928) .- The Mikado's Empire

New York : Harper , 1876

625p ; 23cm

グリフィスは 1870(明治 3)年に福井藩の招きにより来日したアメリカ改革派教会の宣教師。はじめは

福井藩で、1872(明治 5)年からは大学南校・開成学校（東京大学の前身）に移り 1874(明治 7)年まで化学・物理を教えた。彼は日本学の草分け的存在として、日本人の慣習や歴史について研究し日本文化を熱心に紹介した。日本に関する著作も多く発表している。本書は 1876(明治 9)年に出版されて以来、版を重ね、長年にわたって日本に関する情報源として大きな役割を果たした。

翻訳書：「ミカド：日本の内なる力」（岩波文庫）岩波書店刊 ほか

37. ホフマン 「日本語文典」

Hoffmann, Johann Joseph (1805-1878) .- A Japanese grammar. 2nd.ed.

Leiden : E. J. Brill , 1876

367p ; 28cm

日本学者・言語学者のホフマンは、アムステルダムでシーボルトに出会い日本に興味を持つにいたった。日本使節のオランダ訪問時には通訳官を勤め、日本書のオランダ語訳刊行に尽くし、ヨーロッパにおける日本研究の基礎を築いた。展示したものは 2 版。

翻訳書：「日本語文典」 明治書院刊

38. ブスケ 「日本見聞記」

Bousquet, Georges (1846-1937) .- Le Japon de nos jours et les échelles de l'extrême Orient

Paris : Hachette et cie , 1877

2v ; 23cm

ブスケは日本の司法省に招かれたフランス人法律家。1872(明治 5)年から 1876(明治 9)年まで滞在し、本書には滞在中の体験記や、帰国途中に立ち寄った東洋諸国の紀行文が書かれている。

翻訳書：「日本見聞記：フランス人の見た明治初年の日本」 1・2 みすず書房刊

39. イーデン 「日本：その歴史と現在」

Eden, Charles Henry (1839-1900) .- Japan : historical and descriptive : revised and enlarged from "Les voyages célèbres"

London : Marcus Ward , 1877

328p ; 18cm

イーデンはイギリスの旅行作家で、カナダ、オーストラリア、中国、インド等に関しても多くの著書がある。開国後の日本と諸外国の関係や、日本人の生活様式・風習を、言い伝えの物語を交えながら細やかに描写している。

40. ギメ 「日本散策」

Guimet, Emile (1836-1918) .- Promenades Japonaises

Paris : G. Charpentier , 1878

212p ; 29cm

本書はギメが文章を、レガメーが挿絵を担当したものである。二人はフランスの文部大臣から宗教調査の命を受けアジア旅行に出発、1876(明治 9)年 8 月に来日した。新橋との間に鉄道が開通していた横浜を起点にして関東を旅し、さらに東海道を馬と人力車で伊勢に入り、その後京都に滞在して神戸から日本を離れた。ギメは日本について好印象を持っていたと思われ、明治初期の関東圏の文化を正確に紹介している。またレガメーは、風物や生活する人々の姿を見事に描いている。

翻訳書：「1876 ボンジュールかながわ：フランス人の見た明治初期の神奈川」(有隣新書) 有隣堂刊

41. ギメ 「東京日光散策」

Guimet, Emile (1836-1918) .- Promenades Japonaises Tokio-Nikko

Paris : G. Charpentier , 1880

288p ; 30cm

ギメが、滞在した 3 ヶ月の間に東京、横浜、日光、京都を廻りその間の見聞を綴ったもので、「赤穂四十七士」や「地蔵」などの表現は当時の息吹を感じさせる。共に旅行したレガメーの挿絵が盛り立てている。

翻訳書：「ギメ東京日光散策」(新異国叢書) 雄松堂出版刊

42. メチニコフ 「大日本帝国」

Metchnikoff, Léon (1838-1888) .- L'empire Japonais

Genève : Atsume Gusa , 1878

692p ; 27cm

メチニコフは 1874(明治 7)年に岩倉使節団の推薦と大山巖の紹介で来日した。日本では約 2 年間、東京外国語学校でロシア語教師を務めた。本書には地図・写真・122 人の天皇の一覧など豊富な資料が収録されており、鎖国政策の背景や幕府の対外政策の変遷等も書かれている。

43. デュバール 「日本小景」

Dubard, Maurice, b. (1845-?) .- Le Japon pittoresque

Paris, : E. Plon , 1879

387p ; 17cm

デュバールはフランス軍海軍主計大尉。仏領インドシナ、サイゴン、上海を経て長崎に到着後、京都、大津をめぐる御所、琵琶湖を見物、さらに横浜、江戸を訪れて当時の様子を記録している。本書には富士山、長崎、人力車、アイヌ人などに関する 8 枚の銅版による図が収められており、明治初頭の日本を紹介している。

抄訳：「おはなさんの恋：横浜弁天通り一八七五年」(有隣新書) 有隣堂刊

44. バード 「日本奥地紀行」

Bird, Isabella Lucy (1831-1904) .- Unbeaten tracks in Japan : an account of travels in the interior, including visits to the aborigines of Yezo and the shrines of Nikkô and Isé

London : John Murray , 1880

2v ; 20cm

バードは 1894(明治 27)年に再来日し、1896(明治 29)年まで横浜に居住した。本書は 1878(明治 11)年 5 月から 12 月まで日光、東北、北海道などを旅行し、帰国後にその印象をまとめたもの。旅行作家としての彼女の名を世に広めた作品である。山形県金山町に記念碑がある。

翻訳書：「日本奥地紀行」(東洋文庫)平凡社刊 ほか

45. リード 「日本」

Reed, Edward James, sir (1830-1906) .- Japan : its history, traditions, and religions. : With the narrative of a visit in 1879

London : J. Murray , 1880

2v ; 22cm

イギリスの造船技術者であったリードは、海軍造船長官を経て、下院議員、国家財政委員を歴任。1879(明治 12)年に政府の依頼を受けて来日した。本書はおよそ 4 ヶ月間滞在した中で触れた日本の歴史、風習、宗教などについて書かれたものである。

46. セント・ジョン 「日本沿岸航海雑記」

St. John, Henry Craven (1837-1909) .- Notes and sketches from the wild coasts of Nipon : with chapters on cruising after pirates in Chinese waters

Edinburgh : D. Douglas , 1880

392p ; 22cm

セント・ジョンはイギリスの海軍士官で、本書は中国遠征帰路に寄った日本海沿岸の記録である。巻末にはシーボルト蒐集の日本の鳥類リストが付いている。

47. オーズリー 「日本の装飾美術」

Audsley, George Ashdown (1838-1925) .- The ornamental arts of Japan

London : Sampson Low, Marston, Searle & Rivington , 1882-1885

4v ; 42cm

オーズリーは、イギリス人の建築家、著述家として知られる人物で、日本美術の研究家としても著名である。1860年代後半から 1870年代にかけて、兄ウィリアムとともにリヴァプールやその周辺において、数々の建築の設計を行っており、1870(明治 3)年から 1884(明治 17)年にかけては本書をはじめ「日本の陶芸」などを出版し、ジャポニスムに大きな影響を与えた。本書は染織、漆工芸、金属工芸、寺社装飾、置物など、現在のいわゆる工芸ジャンル全般にわたって、それぞれの技法や製作工程に重点をおいて記述されており、リトグラフ(石版)による多数の美しい挿図が収録されている。

48. ブラック 「ヤング・ジャパン：横浜と江戸」

Black, John Reddie (1827-1880) .- Young Japan : Yokohama and Yedo, a narrative of the settlement and the city from the signing of the treaties in 1858 to the close of the year 1879 to the close of the year 1879, with a glance at the progress of Japan during a period of twenty-one years

New York : Baker, Pratt & Company , 1883

2v ; 24cm

イギリス人のブラックは幕末期に来日し、ジャーナリストとして活躍した。横浜で英字新聞「ジャパン・ガゼット」や「ファー・イースト」などを刊行し、近代日本の新聞の父ともいわれている。本書は、幕末・明治初期の江戸と横浜で起こった出来事を綴ったもので、日米和親条約、安政5ヵ国条約などの外交や伊井大老の暗殺や横浜の大火、東禅寺事件といった幕末期に起こった数々の重要な事件のほとんどが克明に記録されている。

翻訳書：「ヤング・ジャパン：横浜と江戸」（東洋文庫）平凡社刊 ほか

49. ゴンス 「日本美術」

Gonse, Louis (1846-1921) .- L'art japonais

Paris : A. Quantin , 1883

2v ; 37cm

1860年ころに始まったとされるジャポニスムは、当初は日本工芸品の愛好家を中心とした趣味的なものであったが、1878年のパリ万博を契機に熱狂的なブームとなる。1880年代にはヨーロッパ国内に収集された日本美術品を体系的に研究、紹介する試みが始まり、より成熟したジャポニスムの時代を迎える。この時代になると日本美術研究の専門書がフランス語や英語、ドイツ語で発表され始め、本書「日本美術」はフランス語で発表された初の本格的な研究書とされている。著者のゴンスは自身日本美術品のコレクターであると同時に、ジャポニスム運動の中心にあった雑誌「ガゼット・デ・ボザール」の編集長でもあった。1883(明治16)年当時の主要なコレクターの作品を一堂に集めた大規模な「日本美術回顧展」を企画したゴンスは、その直後に自身の美術論を集大成した「日本美術」を限定1400部の豪華本で出版する。全700項に多数の図版やカットを含む本書は日本の歴史・地理・民族の概説から始まり、絵画、建築、彫刻、武具、そして陶磁器、漆器などあらゆる工芸品を網羅し、ジャポニスムを美術のカテゴリーの一つとして定着させる歴史的な書物となった。

50. グリー 「アイヌの熊祭」

Greey, Edward (1835-1888) .- The bear-worshippers of Yezo and the Island of Karafuto (Saghalin) , or, The adventures of the Jewett family and their friend Oto Nambo

Boston : Lee and Shepard , 1884, c1883

304p ; 23cm

グリーはアメリカ人で、日本の昔話をアメリカに紹介したことでも知られている。本書は1868(明治元)

年に北海道および樺太を訪れた時の記録で、本文には 180 点の挿絵が描かれ、アイヌ人や樺太の種族の歴史、習慣、文化に関する貴重な著作となっている。

51. コトー 「極東旅行記」

Cotteau, Edmond (1833-1896) .- Un touriste dans l'Extrême Orient, Japon, Chine, Indo-Chine et Tonkin (4 aout 1881-24 janvier 1882) . 4th.ed.

Paris : Librairie Hachette , 1895

448p ; 19cm

フランス人旅行家であるコトーは極東への旅行を重ね、「シベリア横断記」、「インド・セイロン報告」、「アメリカ報告」などの著作を残している。本書は 1881(明治 14)年にフランス文部省の依頼を受け、鴨緑江を中心にシベリアを調査した際の紀行文である。同年 8 月、長崎に上陸、横浜・東京そして日光を見物した。その後人力車で東海道を下り、名古屋・京都・奈良・大坂を見物し、神戸から中国大陸に渡り、上海・ハノイといった極東を旅している。初版年は 1885 年で、展示したものは 4 版。
抄訳：「ボンジュール・ジャポン：青い目の見た文明開化」 新評論社刊

52. ダールマ 「日本人」

Dalmas, Raymond, comte de (生没年不明) -Les Japonais, leur pays et leurs moeurs : voyage autour du monde. 2nd.ed.

Paris : E. Plon, Nourrit et cie , 1885

338p ; 19cm

ダールマはフランス動物学会、地理学会の書記官を務めた旅行家で、自分の所有する船で北アメリカ、日本、中国、ベネズエラ、コロンビア、セネガル、インドを周航しながら陸上、海洋生物の研究調査を行った。本書は日本を訪問したときの印象を著したもので、女性の髪型、職人、車夫、僧侶、天皇やその側近、火消しなどの職業と服装、言語、文学、風俗、習慣や各地の風物などについて、歴史的説明を加えながら科学者の目で見えた日本を叙述している。展示したものは 2 版。

53. モース 「日本の住まい」

Morse, Edward Sylvester (1838-1925) .- Japanese homes and their surroundings

Boston : Ticknor and Company , 1886 [1885]

372p ; 26cm

モースは日本を 3 度訪れ、滞在中に北海道から九州まで旅行している。大森貝塚の発見や東洋初の臨海実験所を神奈川の江ノ島に設けたことで知られる動物学者。本書はアメリカにおけるアールヌーボーの発展の源となった本であり、同時に日本の建築についてアメリカで出版された最初の本でもある。
翻訳書：「日本人の住まい」 八坂書房刊 ほか

54. モース 「日本その日その日」

Morse, Edward Sylvester (1838-1925) .- Japan day by day : 1877, 1878-79, 1882-83

Boston ; New York : Houghton Mifflin , 1917

2v ; 23cm

文明開化直後の庶民の暮らしぶりなどを挿絵入りで詳細に紹介している。

翻訳書：「日本その日その日」 1-3 (東洋文庫) 平凡社刊 ほか

55. アンダーソン 「日本の絵画芸術」

Anderson, William (1842-1900) .- The pictorial arts of Japan : with a brief historical sketch of the associated arts, and some remarks upon the pictorial art of the Chinese and Koreans

London : S. Low, Marston, Searle & Rivington , 1886

276p ; 41cm

アンダーソンは 1873(明治 6)年来日し、海軍軍医学校において日本の医学教育に貢献した。日本美術にも興味を持ち、理解を深め 1880(明治 13)年に英国へ帰国後本書を記した。本書は歴史的視野から日本美術をヨーロッパへ紹介したごく初期のものといえる。140 以上の図版がテキストと共に載せられており、80 枚あるプレートの多くは見開きの形で詳細な解説が付けられている。それらの図版によって、今は目にすることも困難な絵画や陶器などの工芸作品を多く楽しむことができる。

翻訳書：「日本美術全書」 エディション・シナプス刊

56. ビゴー 「日本素描集」

Bigot, Georges (1860-1927) .- Croquis Japonais

Tokio : [出版者不明] , 1886

31 leaves ; 48cm

ビゴーはフランスの画家、銅板画家。浮世絵にあこがれ、日本美術を学ぶため 1882(明治 15)年来日、士官学校の画学教師、仏語教師などをするうち、次第に日本人と日本の行く末に興味を持ちだし、ついには 18 年におよぶ歳月を日本で過ごすことになる。その間彼は、西洋文明を巧みに吸収しながら変貌していく文明開化の明治社会と、たくましく生活する様々な階層の人々を、時に痛烈な風刺を交えながら描き続けた。ビゴーは地方を旅行して取材した風俗を銅板画集として出版しているが、本書もそのうちのひとつで、彼の仕事が順調に進みはじめ、日本への関心が社会全体へと深さを増して行く時期に刊行された。官吏、軍人(将校、水兵、兵卒)をはじめとして僧侶や小学生、車夫や物売り、女中、按摩など、貧富あまたの人々の生の姿を描きとめた、すぐれた歴史的資料である。本書は好評を得て、その後も 5 年ほど刊行を繰り返し、一部内容の変わったものも残されている。

翻訳書：「ビゴー日本美術全書」 正・続 岩波書店刊

57. ボンヌタン 「極東周航記」

Bonnetain, Paul (1858-1899) .- L' extrême orient : ouvrage illustré de nombreux dessins d'après

nature et accompagné de trois cartes dressées d'après les documents les plus récents

Paris : Maison Quantin , 1887

613p ; 30cm

本書はマルセイユを出発し、インドシナ、中国と旅を続け日本にたどり着くまでの旅行記で、日本の地誌、歴史、美術、文学、風俗について多くの図版を添えて解説している。19世紀末のフランスの極東と日本文化に対する憧憬が感じられる旅行記である。

58. ビング 「芸術の日本」

Bing, Samuel (1838-1905) .- Le Japon artistique : documents d'art et d'industrie

Paris : Marpon et Flammarion , 1888-1891

6v ; 32cm

ビングはドイツ人で、パリで美術商を経営。本書はビングの主宰による、美術論と当時としては最高級に精巧なジロー版による原色の図版を大量に掲載した月刊誌（40冊発行）である。日本とその芸術を紹介するだけでなく、そこから西洋的な芸術観を揺さぶり、問いなおすというビングの思想が反映されている。ジャポニスト達が日本的デザインを研究する際の格好の参考書となった。

翻訳書：「芸術の日本」 美術公論社刊

59. グダロー 「仏蘭西人の駆けある記」

Goudareau, Gustave (生没年不明) .- Excursions au Japon 6th.ed.

Paris : Librairie d'éducation Nationale , 18--?

310p ; 30cm

グダローは1897(明治30)年にフランス領事館の事務代理に任命されたが、それまでに日本には15年間滞在しており、横浜に居住していた。彼は1886(明治19)年に横浜から12日間の旅に出たが、多くの西洋人とは違って上信越へと向かった。本書はその、前橋、新潟、信濃川、直江津、関川、横川を経て上野、横浜へと戻るまでの旅の記録であるが、地方ならではの風俗習慣について、あるいはシニカルにあるいは親愛を込めて描写されている。当時の風景をしのぼせる図版も豊富に収録されている。初版年は1889年で、展示したものは6版。

翻訳書：「仏蘭西人の駆けある記」 まほろば書房刊

60. アーノルド 「日本通信」

Arnold, Edwin, Sir (1832-1904) .- Seas and lands

London : Longmans, Green , 1891

535p ; 23cm

アーノルドはイギリスの詩人でジャーナリストでもある。インドのデカン大学の学長を務め、帰英後デーリーテレグラフ紙の編集者となる。本書は日本の地理、神社仏閣、生活習慣など広く日本の文化事情を記している。

61. コンドル 「日本の造園」

Conder, Josiah (1852-1920) .- Landscape gardening in Japan 2nd.ed.

Tokio : Shuyeisha , 1912

161p ; 37cm

コンドルは明治初期に来日したイギリス人の建築家。1877(明治 10)年に工部大学校 (後の東京大学) に教師として就任し、辰野金吾など日本における西洋建築の先駆者達を指導した。本書では日本庭園の歴史から、灯籠、橋、池などの詳細を分析し、豊富な図版を用いて解説している。明治の日本に残った伝統的庭園の資料として貴重な文献である。補遺には小川真撮影の写真図版が多数収録されている。初版年は 1893 年で、展示したものは 2 版。

抄訳 : 「ボンジュール・ジャポン」 新評論社刊

62. ランドラ 「蝦夷・千島単独紀行」

Landor, Arnold Henry Savage (1865-1924) .- Alone with the hairy Ainu, or, 3, 800 miles on a pack saddle in Yezo and a cruise to the Kurile Islands

London : John Murray , 1893

325p ; 22cm

ランドラはフィレンツェ生まれのイギリス人冒険家。パリで画家としての教育も受けた。本書は 1890(明治 23)年に来日し、単身で北海道を一周、アイヌの人々と生活をともにした全行程 146 日間の旅行記である。ランドラは民俗学や地質学にも詳しく、彼自身によるスケッチも豊富で、明治期の北海道の状況を物語るエピソードも興味深い。

翻訳書 : 「エゾ地一周ひとり旅 : 思い出のアイヌ・カントリー」 未来社刊

63. トリストラム 「日本散歩」

Tristram, Henry Baker (1822-1906) .- Rambles in Japan : the land of the rising sun London : The Religious Tract Society , 1895

304p ; 22cm

トリストラムはイギリスの旅行家で自然研究者でもある。本書は 1891(明治 24)年に日本で布教活動をしている娘キャサリンを訪ねた時の旅行記。キャサリン (1890(明治 23)年大坂プール女学校の校長に就任) は日本の習慣や言葉に対して多くの知識を持っており、彼女が同行することにより、先人達が見逃した興味深い記事にも触れている。

64. フレイザー婦人 「英国公使夫人のみた明治日本」

Fraser, Mary Crawford (1851-1922) .- A diplomatist's wife in Japan : letters from home to home

London : Hutchinson & co. , 1899

2v ; 25cm

ラフカディオ・ハーンやアーネスト・サトウ、チェンバレンなど著名な在日外国人と交流の深かったイギリス駐日全権公使ヒュー・フレイザー卿夫人の滞在記。ドイツ人医師ベルツの動向のほかに、伊藤博文、黒田清隆、後藤象二郎、西郷従道、三条実美といった日本政界の要人との交際についても記され、明治の中央政界を観察した明治政治裏面史としても興味深いものがある。

翻訳書：「英国公使夫人の見た明治日本」 淡交社刊

65. ミットフォード「新日本地誌」

Mitford, Eustace Bruce, b. (1875-?) .- A new geography of Japan for the upper forms of schools and colleges

Yokohama : Japan Gazette Press , 1905

30p ; 23cm

横浜で英字新聞「ジャパングゼット」を発行していた新聞社より刊行された日本資料。地形、天候、人口、産業など、20世紀初頭の日本の姿が記録されている。地図入り。

66. モリスン「日本の画家」

Morrison, Arthur (1863-1945) .- The painters of Japan

London ; Edinburgh : T.C. & E.C. Jack , 1911

2v ; 39cm

名探偵マーティン・ヒューイットの登場する探偵小説で知られるイギリスの小説家アーサー・モリスンは、浮世絵の研究者としても高名で、本書の一部は日本でも翻訳された。初期の日本画から、土佐派、山水画、雪舟、狩野派、光琳、浮世絵と時代を追って解説をすすめる、カラープレートを含む大判の図版で日本美術を詳しく解説している。

67. マクラーン「明治日本の政治史 1867-1912」

McLaren, Walter Wallace (1877-1951) .- A political history of Japan during the Meiji era, 1867-1912.

New York : Russell & Russell , 1965

380p ; 23cm

マクラーンはカナダのオンタリオ州で生まれ、1905年まで当地で牧師として活躍。1908(明治41)年ハーバード大学より博士号を取得して来日し、慶應義塾大学教授に就任した。創刊して間もない「三田学会誌」に多くの論文を寄せている。アメリカに渡った後、日本についての専門家として活躍することになった。初版年は1916年で、展示したものは1965年刊。

68. 万国人物図 ばんこくじんぶつず

1800年代(明治初期頃) 写

1軸 ; 29×1225cm

江戸時代を通じて最も流布した万国人物図。衣服の細部まで丁寧に描かれている。

**69. 東京名所鉄道馬車往復上野公園山下之図 / 広重画 とうきょうめいしょてつどうば
しゃおうふくうえのこうえんやましたのず**

1800年代(明治初期頃)刊

3枚 ; 36×24cm

三代広重による3枚続きの錦絵。1842年(天保13)年生まれ。1894(明治27)年に53歳で没。初代広重の門人。二代広重が師家を離縁になった後に婿に入り、自身二代広重を称した(実は三代)。本姓:後藤、後に安藤。画姓:歌川。横浜絵、東京名勝絵、文明開化絵を多く描いた。

**70. 東京真景図会する賀町三ツ井組 / 広重画 とうきょうしんけいずえするがちょうみ
ついでみ**

1800年代(明治初期頃)刊

1枚 ; 36×24cm

展示 No.69 と同様、広重の画。

**71. 東京開化名景競品川蒸気車 / 国政画 とうきょうかいかめいけいくらべしながわじ
ようきしゃ**

1800年代(明治初期頃)刊

1枚 ; 36×24cm

四代国政による錦絵。1848(嘉永元)年生まれ。1920(大正9)年73歳で没。父である三味線方杵屋貞山の友人歌川国麿の紹介で国貞に入門し、その没後に二代国貞の門人となる。1889(明治22)年に三代国貞を襲名。本姓:竹内。画姓:歌川。展示 No.69、70 の広重と同じく開化風俗絵が多い。

72. 御開港横浜外国人住宅之図 ごかいこうよこはまがいこくじんじゅうたくのず

1800年代(江戸後期-明治初期頃)刊

1枚 ; 63×191cm

横浜の外国人居住区の地図。イギリス、アメリカ、オランダ、フランス人の住居、商館の位置が分かる。前田橋を渡った左奥に外国人墓地も見える。

73. 御開港横浜之全図 / 歌川貞秀著 ごかいこうよこはまのぜんず

1859(安政6)年刊

1枚 ; 70×191cm

1859(安政6)年頃の横浜港を子安の方から眺めた図である。

74. 横浜海岸通之図 / 歌川広重 (三世)画 よこはまかいがんどうりのず

1800年代(江戸後期・明治初期頃)刊

3枚 ; 37×25cm

「御開港横浜之全図」の異人波止場と日本波止場を拡大した図である。

著者索引

著者名	展示 NO.	著者名	展示 NO.
Adams, Francis Ottiwell, Sir	34	Heine, Wilhelm	10
Alcock, Rutherford, Sir	23	Hodgson, C. Pemberton	20
Anderson, William	55	Hoffmann, Johann Joseph	37
Arnold, Edwin, Sir	60	Humbert, Aimé	27,28
Audsley, George Ashdown	47	Hübner, Joseph Alexander, Graf von	32
Bax, Bonham Ward	35	Krasheninnikov, Stepan Petrovich	1
Beauvoir, Ludovic, marquis de	31	Landor, Arnold Henry Savage	62
Bigot, Georges	56	Lindau, Rudolph	26
Bing, Samuel	58	MacFarlane, Charles	8
Bird, Isabella Lucy	44	McLaren, Walter Wallace	67
Black, John Reddie	48	Medhurst, Walter Henry	3
Bonnetain, Paul	57	Mesnier, Pedro Gastão	33
Bousquet, Georges	38	Metchnikoff, Léon	42
Casembroot, François de	25	Mitford, Eustace Bruce, b.	65
Chassiron, Charles Gustave Martin, baron de	19	Moges, Alfred, marquis de	17,18
Conder, Josiah	61	Morrison, Arthur	66
Cotteau, Edmond	51	Morse, Edward Sylvester	53,54
Dalmas, Raymond, comte de	52	Oliphant, Laurence	12
Doeff, Hendrik	6	Osborn, Sherard	13,14
Dubard, Maurice, b.	43	Overmeer Fisscher, J. F. van	7
Eden, Charles Henry	39	Perry, Matthew Calbraith	11
Fonblanque, Edward Barrington de	22	Pompe van Meerdervoort, Johannes Lijdius Catharinus	30
Fortune, Robert	24	Reed, Edward James, sir	45
Fraissinet, Edouard	9	Siebold, Philipp Franz von	4,5
Fraser, Mary Crawford	64	Silver, Jacob Mortimer Wier	29
Golovnin, Vasiliï Mikhaïlovich	2	St. John, Henry Craven	46
Gonse, Louis	49	Steinmetz, Andrew	15
Goudareau, Gustave	59	Tilley, Henry Arthur	21
Greey, Edward	50	Tristram, Henry Baker	63
Griffis, William Elliot	36	Tronson, John M.	16
Guimet, Emile	40,41		

参考文献

岩波文庫（岩波書店）

異国叢書（雄松堂書店）

新異国叢書（雄松堂出版）※雄松堂書店発行のものもあり

東洋文庫（平凡社）

有隣新書（有隣堂）

欧米古書稀覯書 展示即売会目録（丸善）

発行日 2009年10月24日

印刷 事務部 印刷業務課

発行所 東海大学附属図書館

〒259-1292 平塚市北金目1117

TEL 0463-58-1211（代）

<http://www.time.u-tokai.ac.jp/>